

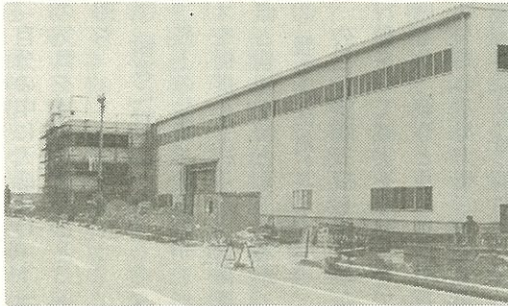
彦とはすぐれたおとこの意。てんひこは豊かな未来を創造する者たちの集団である。



てんひこ

発行所 株式会社天彦産業 東大阪市長田西5丁目10番地 電話(06)744-1701(代)
編集発行責任者 T.H.グループ(園田昌彦 大津卓見 松嶋美亀生 峠谷友紀子)

(完成まじかの新社屋)



NT112-55

仕上げよう

NO.1 TENHIKO運動

「南港進出と明日の企業作り」

代表取締役社長

樋口克彦

待望の新社屋・倉庫が今まさに、十月二十日大阪南港に落成致します。

この天彦産業の歴史に残る大型投資により、去る一九八五年十月に合併致しました効果を、最大限に発揮する図が具体的に描くことができる、ハードの原点が完成するので

す。
このハードの中に、どの様なソフトを作り、希望ある未来天彦作りをするかが、我々に課せられた大きな使命であると思います。

ここで全社員が、ソフトの原点を見直し、同一思想・同一価値観へと昂めていかなければならない。

第一には「本物の利益・仕事の本質」を完全に体得する必要がある。利益は結果であり、目的ではなく、社会への貢献度に応じてもたらされるもので「明日の利益につながる

らない今日の利益は求めるべきではない」。

利益を得る為に、売上を上げるのであって、売上至上主義はとるべきではない。利益を増やすことは、経費を増やさなくても出来る可能性が高いが、売上を上げることは、経費・資金増や設備・労働力を増やすことが要求されることが多いと思います。

また「仕事は完全主義で行われなければならない」。その流れには次工程を常にお客様であると考えて対応していくべきであると思います。

第二には「経済性追求の前に企業文化作りがあるべきである」と言うことです。

事業活動は、突き詰めてみれば、本来教育事業であると思います。

第一に「リーダー・管理職の主な仕事は人を育てることであり、現在自分の仕事を部下に譲れるように育て、自分は一ランク上の仕事が出来るようにしてこそ一人前である。第三に「組織の鉄則とは何

かを知ること」である。

物事の決定は、その事に対して全面的に責任のとれるものがおこなう。形としては、衆議独裁が我社の運営には、ベストであると思っております。

現状では、社員の数が多くなっただけで、木に例えれば枝や葉が多く、大きくなたっている状態で、そのわりには根が深く・太く張れていない。

会社の財産は人・物・金・信用であり、これだけ物・金が増えてくれば・人材の格差が企業の差異を生む。あるいは、そこでしか差異のつけようがないのではないだろうか。

私の人生最大のロマンは、社員全員が天彦産業の中で、自分の可能性を引き出すことによって、大きな幸福を求め、社員一人一人が、この天彦産業の一員である事を、誇りにすることが出来る企業に作り上げることにあります。

二十一世紀を

目指す

取締役会長

樋口彦三郎

昭和六十二年度を向かえ、所感の一端を申し述べ御挨拶申し上げます。二十一世紀が目前に迫り、時の流れの中でその動きを見ますと、そのうねりの激しさを感じます。我々企業の諸環境を見まして昨今の円高不透明における不況は輸出産業だけでなく産業全体に波及しており、非常に厳しい局面になっていると思われまふ。我社におきましても、この影響を全面に受けており油断出来ないと感じます。昨年移転を決定いたしました。南港団地もいよいよ完成の運びとなり、本年中には移転出来ると思われまふ。

当社第三創業の始まりの年となります。尚、宮田鋼商店との合併以来二年が過ぎ去り、いよいよ基盤確立の時かと存じます。社員一人一人が我社

のスローガンの中の↓↓↓「自分の中に天彦NO・1」の気概を持ち左記のこと、即ち

① 顧客に対して

最上の品質、最高のサービスを提供しているか。常に正直と親切を旨としているか。

② 競争者に対して

公正な態度で接しているか。行動を以て誠実を感銘させているか。彼等と共に事業の水準を昂める努力をしているか。

③ 協業者に対して

公平で且つ友情に満ちた関係を保っているか。

以上の点を心掛け御取引先等の状況を十分把握すると共に先方のお役に立つよう努力することが肝要と存じます。各自の健康にも十分留意し、良き意義ある未来に向かって社員全員一丸となり、邁進致します。



各 部 門 長 報 告

業界NO1を数多く造れ

営業部部长

樋口友夫

「粗鋼八千万トン体制」「円高一四〇円突破」等鉄鋼業界にとつて厳しい六十二年度を迎えた。そして各鉄鋼メーカーは揃って「量から質へ」の転換を打ち出した。この転換はメーカーだけでなく流通にも影響を及ぼしています。一億トン体制がそのまま残っている流通にとつてメーカーのこの転換は今までと違った形の競争が激化すると見なければならぬ。特殊鋼業界はその最たるものだと言える。さて我社がこの潮流にどう対処するかが今期のカギとなる。昨年度は合併初年度という事で「出せるウミは全て出せ、そして新しい天彦の土台を造れ」のスローガンで今日まで来た。然しながら今は周

囲の環境の変化が大きく、質への転換は絶対条件となる。

仕事の本質、本物の利益とは具体的に何かを追求し企業品質を昂めなければならない。NO1運動総仕上げの今期営業部内全ての活動にこの意識を浸透させ、定着させたい。課単位、拡張グループ単位、ラウンド活動目標等に。そして、これらを実行、成果を上げることにより、取引先との信頼、信用の中で業界NO1を出来る限り数多く造りたい。

貿易部独立採算制の確立

貿易部部长

宮田康之助

今年より一層の国際化時代を迎え、我々増々世界に目を向けなければなりません。五月には百三十七円という円高で内需の停滞に拍車が掛り、不景気の到来、鉄冷えの中で

新聞を読めば、毎日日本のどこかで、工場閉鎖希望退職募集、一時帰休等の活字が目に見え飛びこんでいます。しかし我々としてはだから仕方がないというわけにはいかないのです。十月には南港進出という莫大な設備投資、また百億円企業を目ざして頑張らねばなりません。その上円高時代の到来にもかかわらず、貿易部が独立採算を取れるよう確立させねばなりません。今期よりスタッフが五人になり部としての組織も充実し、輸出だけでなく輸入面においても力を入れる組織体制が出来ました。そして四一六ラウンドは、売上粗利面で目標を一〇〇％達成し、この円高時代にもかかわらず好調です。最近のNICSの攻勢で、我社貿易相手国にたくさん鉄鋼製品が売られています。幸いにして特殊鋼は、まだまだ日本製が要求され、我社の活躍が期待されます。毎期、期首目標を達成し、一日も早く独立採算

を取り入れるよう頑張りたい。が出来ていない。しかし本年こそはこの理解を完成させ

企画管理部部長

宮田 莊一

昨年とは合併元年として、
理解の年”であった。創業一
一年の伝統から生まれた天
彦精神や理念は、常に真理を
追求して止まない感性豊かな
TOPによって培われたもの
であり、社員一人一人の考え
方や行動に生きていた。従っ
て先づ自らがこれを完全に理
解し身に付けなければ、この
合併の成功は有り得ないと考
えた。昨年の急激な円高ドル
安は輸出産業や重厚長大産業
に大きなダメージを与える強
風となって吹き荒れた。最早
や拡大再生産型の産業は大き
な転期を迎え、マイナスシー
リングの中でのサバイバルゲ
ームを勝ち抜くためには、中
途半端ではなく、常に物事の
本質を正しく理解し完全主義
に徹して真理を追求する心構
えが最も必要となって来た。
天彦イズムの完全な理解は未
だ出来ていない。しかし本年
こそはこの理解を完成させ
行動の年”にして行きたいと
思う。理念は具現化されなけ
れば全く紙上の空論となる。
更に厳しさを増す環境の中
で、正しい目標を定め、計画
し、あらゆる知恵を出してこ
れを実現して行かなければな
らない。すなわち確かな利益
計画を作成し、これを実現さ
せるための営業、現業、管理
の進め方のマニュアルを造出
したいと思う。”本音で行う
言動”が”立て前で行う事”
の水準に高める事を最大の目
標としたい。

現業部工場長

岩崎哲男

企業は何んとしても勝たね
ばならない、それには顧客要
求に必要な事業体質作りが必
要となって来る。顧客の要求
する本物、本質、値打にどう
対応するかが勝負となって来
る。機械損失を見つめ機械損
失をつぶす、つまり価値感、

組織変更・人事移動

先の五月二十九日開催の弊
社定時株主総会並びに取締役
会におきまして左記の通り役
員が選任され、それぞれ就任
いたしました。

昭和六十二年六月

株式会社天彦産業

代表取締役社長

樋口 克彦

記

取締役会長

樋口 彦三郎

取締役社長（代表取締役）

樋口 克彦

取締役（営業部長）

樋口 友夫

取締役（企画管理部部長）

宮田 莊一（新任）

取締役（貿易部長）

宮田 康之助（新任）

取締役（非常勤）

塚田 光夫

監査役（非常勤）

古川 恵三

部長代理・斉藤安平（社長付

課長） 課長・森田祥一（課

長代理） 課長代理・池口敏

正 課長代理・新庄達吉 工

場長補佐・杉原信良

新規採用

梅北広明 西谷浩 浜野健

一 高岡美佐 入本隆一

退職

萩原利武 茨木繁雄 宮下

敬一



※QCD Q品質
Cコスト D納期



トレーナー制度

今期より、導入となったこの

☆在庫管理トレーナー

現業 杉原信良

☆連絡業務の正しい

ルールの作成

☆得意先台帳の作成と整備

営業 山川隆男

☆書類・図面の整理

保管、廃棄の仕方

のトレーナー制度とは、各社員が日頃から問題点、改善点

六十五年度の棚卸しは三時

営業 武田恒夫

得意先台帳（データベース）

企画管理 池口敏正

と思われる物に対し、代表者となり、その問題に対し、自ら改善方法を考え、部署別又は全社員に対し、それを実行させ、問題点を無くしていくというものである。今回取

トレーナー制度の一環として連絡業務に関して改善していくグループです。目的は、情報、連絡等の伝達がより早く、より正確に出来るシステムを創り出していくことです。

は勿論、住所、資本金、決済条件、ETC……は最少限度必要な事ですが一番大切な事は、その企業の方針や現状

書類、図面の整理、保管、廃棄の仕方。これが昭和六十二年のトレーナー制の題目である。この一年間、業務上の関係もあり南港に移転するまでにはこのテーマのシステム化を計る。探し易く、使い易く、戻し易いという書類管理が一番弊社において必要な課題である。この目的は、事務作業の効率化。オフィススペースを効率的に使う。クリンで働き易いオフィス環境を作り出す。この三点を徹底的に追求し完成したい。と、今年度の抱負として、只今深く静かに進行中である。

上げられた問題点は、現業部杉原氏（在庫商品の完全把握が容易に出来る方法）・営業部山川氏（得意先台帳の作成と整備）・営業部武田氏（連絡業務の正しいルールの作成）

例えば現在連絡帳を使用してはいますが、より有効に使える方法を検討しお客様にご迷惑をかけず、信用、信頼される社風を内部より創り出していきたいと思えます。これにより目に見えない損失を防いでいけることも確信しています。

勿論、住所、資本金、決済条件、ETC……は最少限度必要な事ですが一番大切な事は、その企業の方針や現状

図面の整理、保管、廃棄の仕方）以上の四題が取上げられ、この四名がリーダーとなり、専門書、専門業者等からの情報、方法を得、この課題に挑戦していくことになりました。そこで、各リーダーからこの課題に対する計画と意志を、ここに発表させていただきます。

従来の在庫管理は、はっきり言って出入庫担当さえ解れば良いと言うやり方でした。これではチェック出来るのはたった一人だけという事になります。そこで、今年十月の新工場移転までに商品在庫が一目瞭然で解り、誰もがチェックし現品把握が出来るようにします。当面の活動内容として七月、出入庫時製品チェック場新設、絵符シール作成、絵符シールによる現品管理システムを行ない九月には新システムスタートを行ないます。

秋には南港移転で営業倉庫も一つに集約されますので、それまでには、完璧なまでのシステムを創り出し、新たなスタートがスムーズに出来る様に実施していきたい所存です。

貿易部、新庄課長代理と共に国内外を問わず各得意先の企業台帳、担当者台帳の作成と整備を今期我々の課題として成しとげる決意です。

メンバー（営）村上威津夫
（企）竹山弘美

メンバー（現）武田真次
（営）北尾修一

メンバー（貿）大橋 浩
（企）佐藤浩一

メンバー（営）村上威津夫
（企）竹山弘美



委員会だより

「新しい活動を考える」

今回のメンバー変更により各委員会は、若手社員がリーダーとなり、これまでの活動プラス新しい物を取り入れ、今後益々の活性化が図られていくと考えられます。

ハッラツ委員会

現業部 上田 学

今年のハッラツ委員会は、メンバー六人でその平均年齢が二十四才という若さです。

全社員の健康管理、体力向上、健全な人づくり、を目標として活動しております。特に週四回のジョギングには力を入れ、毎年行っている定期健康診断。今年からは、天彦全

員参加のソフトボール大会を年間三試合程行う予定です。昨年、企画しながらそれで終わってしまったオリエンテering式ジョギング大会を、今年はずすで遂げる、という思いでメンバー全員が持ち前



(ハッラツ委員会主催の)

ジョギング

の若さとガッツで、より一層社員の健康管理と人づくりに努力していきたいと思えます。

ヒラメキ委員会

営業部 上田 勉

ヒラメキ委員会としてましては、尚一層、個人のレベルアップ、及び全体の資質の向上等を主目的として委員会を運営していきます。その一環として毎日の朝礼、特に五月よ

り管理者による特別朝礼を行い、良い意味での差別を社内

に広めていこうと思えます。朝礼の基本的な考え方は、人前

で話をすることを第一目標とし、少しでも話し易いテーマ作りを心がけて参ります。又、図書登録制度を一步進め

た社内研修がスタートしました。朝礼内容の充実、質問制度の取り入れ、年三回朝礼大賞者の選出等を進めます。今回のヒラメキ委員会も前委員

ピカピカ委員会

企画管理部 住永亜由美

我がピカピカ委員会は目立たない地味な委員会です。常に影の力的存在でありましたが昨年、愛煙家の多い我が社において全社員の協力により全

員禁煙という大違業を成し遂げた実績を受け継ぎ、委員会

だけの活動ではなく全社員に協力を投げかけ更にパワフルピカピカ委員会に成長して行

きたいと思っています。月一回の大掃除と日々の細めな掃除を重点的に考え、更には「身の周りのきれいでチェック」を行います。今年は南港移

転という事もありますので新社屋も汚さない、乱さないピカピカ人間の増進に力を注ぎます。又、安全面に於ても春と秋の交通安全講習会実施。

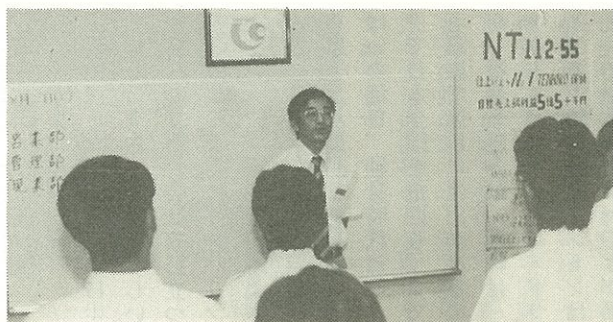
現場倉庫内の整理整頓にもより一層の努力をしていきたいと思っています。このように我が委員会では、今後もピカピカ精神に則って安全第一で

T・Hグループ

現業部 園田昌彦

我々T・Hグループは、新メンバー四名による組織で人数は他委員会より少ないが、まとまりを重視した活動を行なっています。従来からの社

内報はもちろんの事、今期に於いては南港移転に際して会社案内作りという重大なイベントを控え、ある種の緊張と不安を胸に抱きながらも結束新たに頑張るつもりです。とにかく、会社の広報企画を預かる事の責任を今一度見つめ直し、活字を通して社外の人たちと接する事を最大の喜びとして努力して参ります。



(ヒラメキ委員会主催の朝礼)

新入社員紹介

梅北 広明君 (O型)

昭和62年2月21日入社

貿易部所属

昭和四十年一月二十三日生まれの二十二才。短所としてすぐに照れてしまうという彼ですが、車と自分の部屋にパーソナル無線を持っていろいろな方々と会話を楽しんでいるそうです。また、二重まぶたと一重まぶたにできるという特技をおもちとか……。宴会での貴君を今から楽しみにしていますね。



西谷 浩君 (A型)

昭和62年2月21日入社

現業部所属

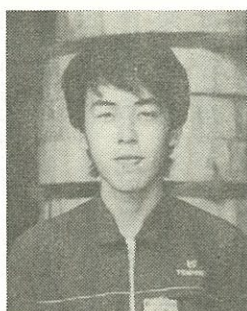
昭和三十五年九月七日生まれの二十六才。自称、落着きがなくおっちょこちょいという彼ですが、仕事に関しては先輩方へ追いつき追い越したいというファイトマンです。家の方では、女の子、男の子と二人の子供さんがやんちゃ盛りで、毎日がパニックだそうです。趣味は、ドライブで休日には、家族四人であちら、こちらへ行かれるそうです。早く、先輩方を追抜いてください。

浜野 健一君 (O型)

昭和62年2月21日入社

現業部所属

昭和四十三年五月二十六日生まれの十八才。モータースポーツ、特にバイク・車が好きで、他にボーリング・ビリヤードを下手なりに楽しんでいるというたぐさんの趣味を持っている、当社で一番若い彼です。中でもバイクで遠出するのが大好きで、これまでに紀伊半島を、原付バイクで一周したとか……。最近では、中型バイクを購入し、今度は、地平線を見に行つてみたいとのこと。事故には気を付けて安全運転でね!!



高岡 美佐さん

昭和62年3月21日入社

企画管理部所属



入本 隆一君 (A型)

昭和62年7月21日入社

現業部所属

昭和三十六年四月三十日生まれの二十六才。おとなしい性格なのでこの会社で目立つ人間になるようにガンバリマスという彼、現在は、寿美さんという奥さんと祐太君という息子さんに囲まれ幸福いっぱい毎日、独身時代はバイクで日本全国を飛び回り、今でも家族で休日には出かけるのが一番楽しみとか。趣味は、スキー・バドミントン・ドライブで、特にバドミントンはサークル活動をやっており、仲間を募集中です。目立とう精神大歓迎です!



昭和四十四年三月十三日生まれの十八才。なんと我社社長の同名「克彦」さんというお父さんとお母さん、お兄さんの四人家族。先輩方の足を引っぱらないように、明るくがんばりますと元氣一杯の本当に楽しい彼女です。高校時代には柔道部のマネージャーをしていただけあって、何に対しても一生懸命です。また、ペン習字検定二級ととてもきれいな字を書かれます。社会人一年生ですが、そのファイトでがんばってください。

〔家族紹介〕

樋口克彦社長

奥様の百合子さん(46才)

ケーキ作り、簾芸、陶芸、絵画など知性と教養あふれる多彩な趣味をおもちです。また子供さんの教育から日曜大工園芸など家の中の事はすべて奥様の分野だそうです。

長男の威彦さん(21才)

京都大学工学部二回生として存学中。京都で下宿をされていて、自炊をし洗濯など自分の身の回りの事をすべて熟さ



れているそうです。また、スポーツでは、現在テニス同好会に所属しがんばられているようです。

長女の淳子さん(17才)

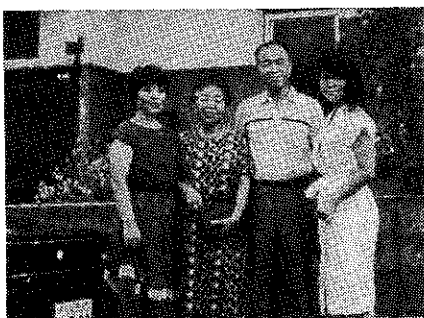
現在、狭山高校に通う三年生。休日には洋服を作ったり、セーターを編んだりするのが大好きで、またショッピングに行ったりするのも楽しみだとか……。家では食事や掃除などよくお手伝いもやるし、お母様とは友達のような仲で、最近では洋服・アクセサリなど兼用されているそうです。

次男の誠彦くん(13才) 小さな頃から将棋の先生について、現在初段の腕前。中学校のクラブ活動では、バスケ部に入部し、毎日々休日も練習に励んでいるそうです。また、お父様の血を受け継がれてやはり読書家で、現在歴史に興味をもち、「武田信玄」を読書中とか……。

追伸!!

ご家族からみたお父様(社長)は、みなさん共通して家

の外では難しそうな人だけども家では、家族の事を思いやりとてもやさしいお父様だそうです。しかし、奥様には少々厳しいところもあるそうです。が……。いつまでも御家族円満にお過ごし下さい。



仲よし家族

営業一課 野村昌代

お父さんは、船舶関係の仕事をお営んでおられて家でお酒を飲むのが楽しみだと言った。の日本酒党。夕食は家族そろってその日の出来事を話しながらの食事だそうです。鳥取県出身、海育ちのせいかな。

海釣りが大好きとか。お母さんは、親子そっくり体型と言われるぐらい野村さんと同じだとか。特別な趣味はないらしいが洋裁が得意で小さい頃はよく手作りの洋服を作ってもらったそうです。弟くんは、昼間にお父さんの仕事を手伝い、夜は自分で夜間の大学に通うと言うなかなかのファイトマンだそうです。趣味はサrfinで只今無我無中です。写真のおばあちゃんは、鳥取に住んでいて七十一才になるがとってもお元気でよく大阪に遊びに来られるそうです。いつまでも仲よし家族でいて下さいね。

天彦野球部結成

六月二十日に、我が天彦野球部は、結成の運びとなりました。メンバーは、社長(なんと背番号18番)以下十八名が部員です。ユニホームは、天彦カラーのスカイブルーに赤と紺のラインが入ったもの

です。監督には、現業部上田氏、キャプテンには、現業部杉原工場長補佐が選ばれ、まずは連盟Bクラスを目指し、夢としては、大阪府代表になれるなどかつてに考えている次第です。七月十一日に初めて全員がユニホームに身を包み、石切市民球場にて紅白戦を行ない、五回に上田氏の3ランホームランなどが飛び出したのをきっかけに均衡が破れ、試合終了時には、十四対十二というスコアで天彦Bチームが勝ちました。今後、我々天彦野球部では、各方面の方々よりの挑戦を、お待ちしております。

